

【個別技術紹介】

PCウイルス対策装置（有線 LAN 自動切断） [試作品]のご紹介

<開発の背景>

- 近年、コンピュータウイルス(以降、ウイルス)による情報流出や PC の乗っ取りなどの被害が発生し、企業や個人にとってウイルス対策は必要となっています。
- LAN ケーブルを接続した状態でウイルス検出ソフトがウイルスを検出した際の手順としては、物理的に LAN ケーブルを抜き、ウイルスの影響を拡散させないこと、情報の流出をさせないことが重要です。
- しかし、ウイルス検出時のオペレータの動揺などによって LAN ケーブルを抜くのに手間取ることや、近年多く活用されているリモートワーク(リモートデスクトップ方式の場合)では、ウイルスを検出した際に、接続先 PC の LAN ケーブルを物理的に抜けないという課題があります。

<コンセプト>

PCウイルス検出ソフトがウイルス検出した際、自動的に有線 LAN を未接続にするシステムを作ることによって、ウイルスの影響を最小限にとどめることができます。

<試作品構成>

PCウイルス対策装置と PC 駐在ソフトの 2 つで構成されます。

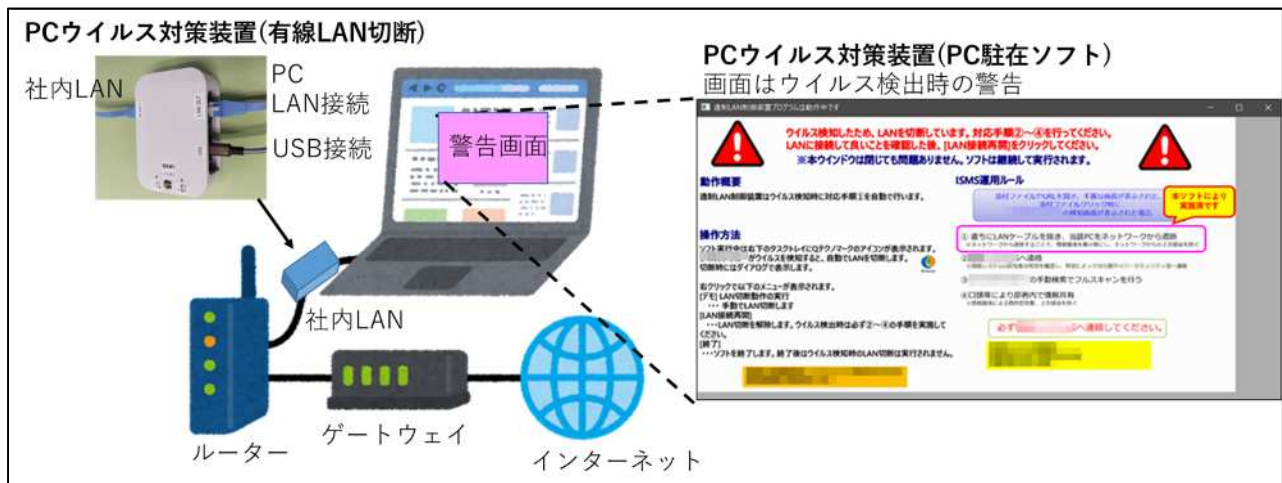
- PCウイルス対策装置(有線 LAN 切断)

装置には LAN ポートが 2 つ、USB ポートが 1 つあります。LAN ポートの 1 つは社内 LAN、もう一つは PC の LAN ポートに LAN ケーブルで接続します。USB ポートは PC と接続し、装置の電源給電と PC 駐在ソフトと制御信号の通信を行います。装置内には LAN を中継するスイッチがあり、LAN 接続/未接続を PC 駐在ソフトからの制御信号で制御します。

- PC 駐在ソフト

ウイルス検出ソフトを監視し、ウイルスを検出した場合に、PCウイルス対策装置に LAN を未接続(切断)にするための制御信号を送信するとともに、PC の画面に警告を表示し、ウイルス検出時の対応を促します。

< PCウイルス対策装置の概要図 >



<今後の取り組み>

社内で実証試験を実施し、対策効果を確認。無線 LAN の自動停止ソフトを含めた製品化の検討中。